

エッセー 自然が育む力

（こしは例年に比べて 子どもたちに「雪の色探雪が多く、但馬らしい冬し」をしよつと持ち掛けとなりました。スキー場で遊び始めると、いろんな盛り上がりがあるような答えが返ってきます。ですね。私が勤める美方 太陽の光を反射した銀高原でも、連日子どもたちや建物の陰にできる青色、金色、虹の色。樹木の雪があるだけで子どもたちのテンションも高くなるので、雪にはなんだけ不思議な力があるようにです。

さて「雪の色って何色ですか？」と聞かれたら、あなたならどう答えますか。

当然「白色」と答える方が大部分のはず。でも

雪は白いのか？

先入観を持たない自然体験



朝日に向かって「おはよう」とあいさつする子どもたち

くさんの「雪の色」を発 ありません。見し、数え出すと切りが 雪はいろんな色を持つ

ているのです。大人の感触れた瞬間であり、その覚だと、雪が白いのとは当時感じた、発見した驚きたり前のことですが、こや喜びから、感受性といの「当たり前」という感じが大きく育まれてい覚は、長い年月のうちにきます。感受性こそが心体に染み付いた先入観との豊かさを創造する土台世間の常識からくる心のといえるかもしれません。縛りが身に付いてしまっ

たのかもしれない。自然は、楽しみながら私は日々の生活や自然学べる最高の場です。ゼ体験の中で、一番邪魔なのは先入観だと考えています。自然の中は不思議な否定にびくびくせず、の連続。時間や天気によって見えるものや、動いているものが移り変わっていきます。その移り変わりこそが、その時にしか見えない自然の営みに

但馬だからこそ出合える素晴らしい自然。この良い環境の中だからこそ、力いっぱい自然の中で遊ばせましよう。

(尼崎市立美方高原自然の家所長 田中誉人)